

地域でにぎわう冬まつり

2017

市内では伝統の小正月行事が開催されました。寒さを吹き飛ばす熱いイベントに、多くの観客が訪れ、冬の楽しみを満喫しました。

なるか



なるかでは、稲わらに火をつけながら歩いた後、生保内神社で参拝しました。



お焚き上げでは、近隣住民の皆さんが正月のしめ飾りや門松などを持ち込みました。

2月11日、田沢湖の生保内地区に古くから伝わる小正月行事「なるか」が市役所田沢湖庁舎駐車場で行われました。この行事は、稲わらに火をつけて振り回し、害虫を追い払うと共に、果樹に実がなるか、ならないかを問いかけながら、今年の豊作を願うものです。正月のしめ飾りなどのお焚き上げも行われ、家族連れなどが訪れていました。

松葉・相内の裸参り



参加者は、金比羅神社で着用していた腰みもとわらじを御神木に結び付けました。



松木内川に入り、お清めする参加者。



金比羅神社まで元気に駆け上がります。

2月12日、松木内の松葉地区で裸参りが行われました。今年は曇り空のもと、地元の若者や消防署員のほか、県外からの参加者も合わせ14人が参加しました。松木内川でお清めをした後、一行は金比羅神社を目指し、沿道の声援を受けながら元気に走りました。

角館の火振りかまくら



400年以上の歴史があるといわれる火振りかまくら。炭俵には1程の縄が結ばれていて、その縄で俵を振り回します。



小正月行事「火振りかまくら」が、2月13日に松木内川堤沿いの桜並木駐車場で行われました。会場では、五穀豊穡や無病息災などを願い炭俵に灯した炎の輪がいくつも広がりました。今年準備された炭俵は約650個。地域住民や観光客などが集まり、次々と火振りかまくらに挑戦しました。翌14日は、角館町の各所で火振りかまくらが行われました。

上松木内の紙風船上げ



夜空に舞い上がる紙風船は人々を魅了します。



2月10日、上松木内の紙風船上げが西木町紙風船館隣の特設会場で行われました。五穀豊穡や無病息災、家内安全などの願いを込めた大小約100個の紙風船が次々と空に舞い上がると、多くの観光客などからは歓声が上がリ、闇に浮かぶ幻想的な光をいつまでも見守っていました。

紙風船館ではドローンの空撮映像など、地方創生特区の取り組みも紹介されました。



歌手の青谷明日香さん(右)と松原健之さん(左)がゲスト出演し、生歌を披露しました。

中里のカンデッコあげ



塞ノ神堂で祈願した後、カンデッコあげが次々と行われました。



2月11日、西木町上松木内の中里集落に伝わる「中里のカンデッコあげ行事」が塞ノ神堂前で行われました。この行事は、豊作や家内安全、子宝などを願い、中里のカンデッコあげ保存会が旧暦の1月15日に開催しているものです。「カンデッコ」とは、ホオの若木で作った小型のくわのこと。これとクルミの若木をしめ縄で結び一対にしたものを神木に投げて、枝に掛かると願いが叶うといわれています。集まった参加者は願いを込めながら、勢いよくカンデッコをあげていました。

